

1. 単元名 ピボット

2. 本時の概要

本時は、中学2年生がこれまで取り組んできた探究活動(および探究Day)の成果を振り返り、そこで培った専門知識を新たな文脈で応用・変革させる「ピボット(方向転換)」の導入授業である。これまで個人の興味を中心に培ってきた知識やスキルをベースに、社会課題の解決や他者への貢献へと視野を広げる重要な転換点として位置づけている。

前半(1時限目)は、これまでの探究の成果発表である探究Dayについて、各種振り返りフォームや「SSコンピテンシー質問紙調査」を実施し、生徒自身の資質・能力の変容や課題を客観的に省察させる。

後半(2時限目)は、新たな国際貢献プロジェクトとして、アフリカ・南スーダンの教育環境を端末でリサーチする。「道具を使わない」「現地のもので代用する」といった制約の中から、これまで得た知識を現地の子供たちのために使える「道具・教材」へと作り変える具体的なアイデアを班ごとに模索する。さらに全体での共有を経て、似た問題意識を持つ班同士の合体や再編成を柔軟に促し、今後約2ヶ月間にわたる協働的なモノづくり探究の強固なチーム体制を確立させる。

これらの活動を通して、自らの知識を社会に還元する当事者意識と、限られた環境の中でも柔軟に課題を解決する思考力を養うため、本時を設定した。

3. 本時の目標

- これまでの成果の省察と課題の把握:

Webコンテスト等の活動を振り返り、コンピテンシー調査を通じて自身の資質・能力の成長や課題を客観的に理解できる。

- 異文化における現状と課題の抽出:

南スーダンの教育・生活環境を主体的にリサーチし、現地の具体的な事実や制約条件をワークシートに記述できる。

- 知識の応用と協働的チームの編成:

培った専門知識を現地の環境に合わせて変換(ピボット)するアイデアを出し合い、最適な協働チームを編成できる。

4. 本時の準備・使用教材・参考文献

- 教員用提示資料:

- 授業スライド 第20回

- 使用教材(副教材):
 - 岡本尚也(2019)『課題研究メソッド Start Book』新興出版社啓林館
- 生徒用配布プリント:
 - 中2探究Dayフィードバックシート
 - ワークシート『ピボット』
- 参考・引用文献:
 - 中村 雄一(2025)『なかよし探究BOOK』 特定非営利活動法人 なかよし学園プロジェクト
 - 東大IPCホームページ -『ピボットとは？企業戦略としての重要性、注意点、成功事例を解説』
<http://utokyo-ipc.co.jp/column/pivot/#%E3%83%94%E3%83%9C%E3%83%88%E3%81%A8%E3%81%AF%E3%83%9F> 2026年7月28日

5. 本時の展開(100分:50分×2コマ / 中間休憩10分)

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
【1時限目】		
1分	スライドに基づき、本時の全体の流れ(1)Webコンテスト振り返り、(2)ピボット、(3)次回の予定)を確認する。	生徒が本時の見通しを持って自己省察と新しいプロジェクトに臨めるよう、提示を簡潔に行う。
49分	② Webコンテスト・探究Dayの振り返り ・配布された「中2探究Dayフィードバックシート」を確認する。 ・端末を用いて、以下の3つのフォームへの回答・入力を行う。 1. 探究Day自己評価フォーム 2. Webコンテスト振り返りフォーム 3. SSコンピテンシー質問紙調	・前回の発表で得た他者からの評価を真摯に受け止め、自身の変容を客観的に見つめ直すよう促す。 ・机間巡視を行い、フォームへのアクセスや入力が滞っている生徒への個別サポートを行う。
10分	休み時間	・教員は生徒が速やかに移動し、各自の席で端末の起動・接続を完了できるよう巡視・声かけを行う。

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
【2時限目】		
2分	③外部発表イベントの案内 スライドを用いて、「探究フェスティバル」への参加・発表者募集の連絡を聞く。	・他校の生徒や教員に向けて自分たちの探究成果を発信できる貴重な機会であることを伝え、積極的な挑戦を促す。
2分	④ 新プロジェクト(ピボット)の説明 ・スライドを見ながら「ピボット(方向転換・知識の応用)」の概念を理解する。 ・今回のミッション「Webコンテストで培った専門知識を、アフリカ・南スーダンの現地で使える道具や教材に作り変えてプレゼントする」のゴールを確認する。	・現地の条件を提示し、これまでの知識をどう「モノ」に変換するかというミッションの意欲を高める。
10分	⑤ 現地のリサーチと事実の抽出 ・ワークシート(Step 0)を受け取る。 ・端末を使い、南スーダンの学校や子どもたちの生活の現状を調べる。	・具体的な事実を捉えさせるよう指導する。
2分	⑥ 各教室の担当ミッションの確認 クラス(または教室)ごとに割り振られた、今後2ヶ月間で達成すべき担当ミッションを確認する。	・自分たちがどの切り口から南スーダンへ貢献するのか、責任の所在と範囲を明確に意識させる。
15分	⑦ 班でのブレインストーミング(アイデア創出) ・現在のWebコンテストの班で相談を開始する。 ・「道具を使わない」「日本で使わないもので代用する」「心だけ伝える」という3つのヒントを基に、南スーダンの人々が笑顔になるアイデアを考え、ワークシート(Step 1)に記入する。	・思考が停止している班には、「引き算(あえて道具をなくす)」や「現地にあるものへの代用」といった具体的な思考パターンを提示して机間巡視しながらファシリテートする

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
5分	⑧ アイデアの全体共有 ・全チームの代表者がその場に起立し、「自分たちが何を作るか」の結論のみを大きな声で1人ずつ発表していく(クイック共有)。	・時間をかけずにテンポよく全員のアイデアを回し、クラス全体にどのような解決策の選択肢があるかを俯瞰させる。
13分	⑨ チームの再編成と最終決定 ・全体の発表を聞き、似たアイデアを持つ班と「合体・パワーアップ」するか、「現在のメンバーで継続」するかを約10分間相談する。 ・最終決定したチームで、ワークシートの最後の欄(チーム確定と初期アイデア)を記入・提出する。	・従来の枠組みに固執せず、目的達成のために柔軟に協働体制を変えてよい(ただし教室間移動はなし)ことを強調し、対話を促す。 ・決定した新チームでのワークシートの記入漏れがないか巡回して確認する。
1分	⑩ 今後の予定とまとめ ・次回の授業では、「誰のために」「どんな形」で教材を作るかを具体的に決定していくという予告を聞く。	・次回のモノづくりへの見通しを持たせるとともに、ワークシートの回収を行い、本時の自律的な対話とリサーチの姿勢を称えて締めくくる。